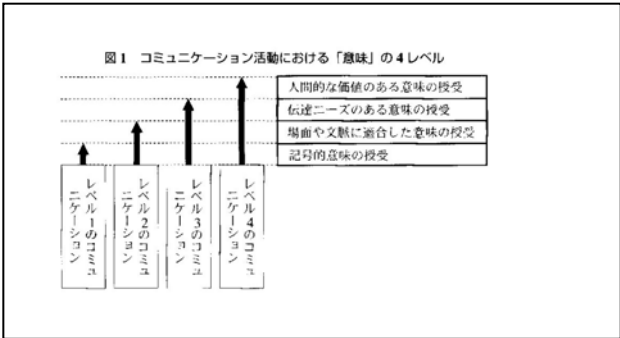


HLT (Humanistic Language Teaching)授業の現代的定義

これからのヒューマニスティック英語教育づくりガイド

ヒューマニスティック英語教育研究会会長・三浦 孝

- ◇ この資料は、加賀田哲也・縫部義憲・三浦孝・種村綾子・鈴木章能・Jerry Talandis・石井博之氏らから寄せられた原稿をベースに作成しました。
- ◇ Rogers, Maslow, Moscovitz, 縫部らの先駆者の敷いた原理を忠実に踏襲しつつ、その後の理論的・実践的進歩を取り入れました。
- ◇ この資料は広義に「HLT の授業はどうあり得るか」の範囲を収めたものであり、「ここに挙げた項目を全部行わなければ HLT とは呼べない」といった狭い定義を意味するものではありません。）

<p>I. approach (根底を成す理念・信念)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育で究極的に何を目標として教えるか ・英語はどのようにして学習・習得されるかについての見解 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間中心の教育は、各個人が持つて生まれた自己の潜在的可能性を十分に発揮して自己実現を図ろうとする主体性・可能性を信頼し、その潜在能力を最大限に実現させる学習と環境を与えることを究極的目標とする。 2. 学習者を全人格的存在（認知的・言語的・情意的・社会的・自己実現的志向的存在）として尊重する。 3. 人間中心の英語教育の下位目標は、 <ul style="list-style-type: none"> ・認知的目標(論理的思考力・目標言語によるコミュニケーション能力の獲得) すなわち授業参加力・プレゼン力・交渉力・討論力の育成 ・情意的目標(個の確立すなわち自己実現への支援) ・相互作用的目标(他者との間に援助的人間関係を形成する能力の育成) ・社会参加的目标(社会に建設的に参加し貢献しようとする意欲・態度) の育成である。 4. 真に生きるに値する自己実現目標は、広い世界的視野の中で見えてくる。外国語という開かれた窓を通して、世界を広く見渡し、自己の価値を世界の中で発見できる地球市民的視野の中で、生きる意味と可能性が見えてくる。 5. (学習環境) 学習が成立するためには、それが生徒にとって意味あるものだと実感されなければならない(つまり自己関与性が有ること)。意味ある学習は学習者自身によって見いだされるものであり、学習者が自らの学習をマネージするイニシアティブが重視されるべきである。 <p style="margin-left: 20px;">生徒の自己実現を支援するためには、望ましい学習環境を整えることが重要である。すなわち、①生徒が自己をより深く理解し・自己を尊重できるような学びが用意され、②教師が生徒に無条件の積極的関心と共感的傾聴姿勢を持ち、③教室のクラスメート同士に安全な雰囲気と援助的な関係が存在すること、が重要である。</p> 								
<p>II. method (指導方針)</p> <p>年間指導計画 年間指導目標 Can-do Statement 使用教材</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本物のコミュニケーション活動 を用い <p style="margin-left: 20px;">本物のコミュニケーション活動とは、図1のレベル4のコミュニケーション、すなわち、発信者と受信者の間で、自分や相手にとって価値のある意味を持った伝達が行われるものを言う。マズローの欲求階層の各レベルの充足につながる事柄や、自己受容、自己防衛、自己向上、他者理解、人間関係づくり、啓示的価値、芸術的価値などを含む意味の伝達が行われるものを言う。(三浦、2006B, p. 17)</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>図1 コミュニケーション活動における「意味」の4レベル</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>レベル4のコミュニケーション</td> <td>人間的な価値のある意味の授受</td> </tr> <tr> <td>レベル3のコミュニケーション</td> <td>伝達ニーズのある意味の授受</td> </tr> <tr> <td>レベル2のコミュニケーション</td> <td>場面や文脈に適合した意味の授受</td> </tr> <tr> <td>レベル1のコミュニケーション</td> <td>記号的意味の授受</td> </tr> </table> </div>	レベル4のコミュニケーション	人間的な価値のある意味の授受	レベル3のコミュニケーション	伝達ニーズのある意味の授受	レベル2のコミュニケーション	場面や文脈に適合した意味の授受	レベル1のコミュニケーション	記号的意味の授受
レベル4のコミュニケーション	人間的な価値のある意味の授受								
レベル3のコミュニケーション	伝達ニーズのある意味の授受								
レベル2のコミュニケーション	場面や文脈に適合した意味の授受								
レベル1のコミュニケーション	記号的意味の授受								

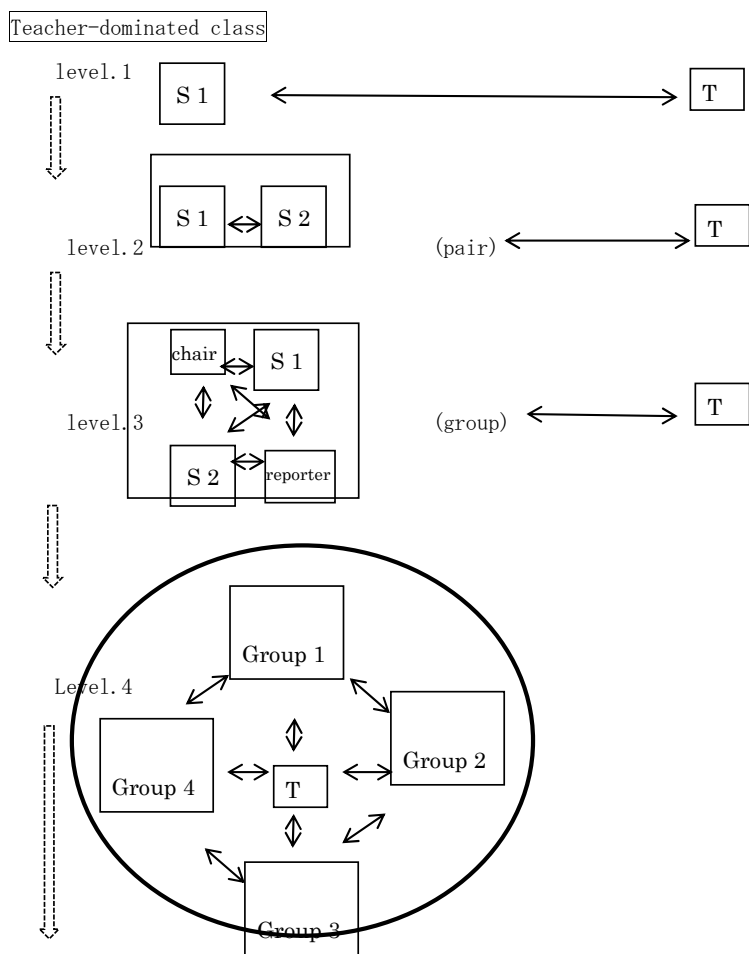
	<p>2. 安心できる教室風土を醸成しつつ</p> <p>(1)安全欲求の充足、(2)やればできるという気持ち、(3)自分の意思で意味ある選択ができる、(4)教師が生徒を尊重している、(5)暖かい、支配的でない教師の存在、(6)ある程度縮まりのある雰囲気、(7)成功体験の積み重ね、が有る教室風土を醸成することは、指導法の重点である。</p> <p>3. 真に意味ある話題と教材を用いて</p> <p>自己実現目標は、将来の地球市民として自分たちが直面する世界の現状を理解し、世界をより良くするために尽力した人々の勇気や知恵を発見するに役立つ話題や教材の中から、またステレオタイプの思考へのチャレンジによって見えてくる。これには SDGs(持続可能な開発目標)や対置テキスト(峯島・今井, pp.156-197)などが参考になる。</p> <p>4. 意味あるプロセスを通して</p> <p>「目標達成」だけでなく、そのために取り組む「プロセス(学習の過程)」にも意味がなければならない。ヒューマニスティックな教育の究極的目標は、授業プロセスの中に既に具現されていなければならない。そのためには、1つ1つの学習過程(授業活動)がどのように</p> <p style="padding-left: 2em;">affective (情意領域) cognitive (認知領域) linguistic (言語領域) social (相互作用・社会性領域) self-actualizing (自己実現領域)</p> <p>での成長に貢献しうるかについての展望を持つことが必要。学習指導案では、各活動がプロセスとしてどのような領域の伸張をねらっているかを、明示するようにしたい。</p> <p>5. 成功体験の積み重ねで自己肯定感を高める</p> <p>「相手の言う英語が理解できた」「自分の英語が通じた」「みんなが一生懸命耳を傾けてくれた」「言おうとしたことを分かってもらえた」→コミュニケーション成功の小さな積み重ねや失敗を乗り越えた達成感が、生徒の自己肯定感を高める。生徒の発話に対して教師は、減点式評価(何が出来ていないから咎める)ではなく、加点式評価(何が出来ているから誉める)で臨むことが必要。</p>
<p>III. techniques (具体的学習活動)</p> <p>毎回の授業では、どのような学習活動を行うか</p> <p>techniques (specific learning activities)</p> <p>What kind of learning activities are conducted in each class</p>	<p>1. 必ずしも HLT に専有の授業活動が有るわけではない。既存の様々な授業活動を、Humanistic な姿勢(特に、自己関与性を持たせる)で用いれば、Humanistic な授業活動になる。</p> <p>Humanistic に活用できる既存の活動一覧:</p> <p style="padding-left: 2em;"><ギャップ活動>情報・感情・意見・価値観・空想・対処法の差を活かす <タスク活動>問題解決型・調査型・立案型・作品完成型 <対話的活動>描写と言い換え・会話リレー・言い換え作文・言い換え会話・共感的傾聴訓練・インタビュー・名刺交換・絵や図や地図を使ったインフォメーションギャップ・show and tell・ポスター・セッション・スキット作り・チェーン・レター・リレー・ノート・トライアングル・ディスカッション・I Know You・Micro Debate・人生相談への回答書き・こんな時どうする?・対置テキスト(三浦他 2006A に詳しく紹介)</p> <p>2. 自己の潜在能力の発達を図るため、学習活動は次の要素と関連づける。(縫部)</p> <p>(1)他者との関係: Relating to others, (2)自己の発見: Discovering myself, (3)私の強み: My strengths, (4)私の自己像: My self-image, (5)私の感情: Expressing my feelings, (6)私の思い出: My memories, (7)他者との分かち合い: Sharing myself, (8)私の価値観: My values, (9)芸術と私: The arts and me, (10)私とファンタジー: Me and my fantasies.</p> <p>3. HLT の活動を設計するための視点(加賀田、具体的活動名は後述)</p>

	<p>(1) 学習者の「いま、ここ」での情意面を関わらせる</p> <p>(2) 学習者の自己概念を高める</p> <p>(3) 他者との関係性を意識させる</p> <p>(4) 学習者の自尊感情や自己効力感を高める</p> <p>(5) 学習者の肯定的思考を高める</p> <p>(6) 学習者の価値観を明確にする</p> <p>(7) まずは教師が自ら defense(教師としてのヨロイ)を外し生徒に対して自己開示する(石井)。教師はその時々 自己の感情を自分で認めるべきである(ロジャーズ)。</p> <p>4. 生徒を授業の主人公として育てる<Talandis></p> <p>To promote active and interactive learning, teachers and students must learn how to work well in groups. Teachers should know how to conduct various tasks, such as training students to take on various roles (group leader, summarizer, word master, etc.), and students should strive to be active and engaged when working with classmates.</p> <p>(具体的な学習者集団育成法については後述)</p>
--	---

資料:加賀田の具体的活動例

- (1) 学習者の「いま、ここ」での情意面を関わらせる
 - ・ What is the most important thing that you have now? ・Do you have anything you' d like to accomplish now? 等.
- (2) 学習者の自己概念を高める
 - ・ How do you think others would describe you? How would you respond to that? ・Make a list of ways in which you think you are different from others. 等
- (3) 他者との関係性を意識させる
 - ・ What are the nicest and the most loving things you have done for your friends? ・Make a list of things that you thanked your family and friends for.等
- (4) 学習者の自尊感情や自己効力感を高める
 - ・ Make a list of all the things you like about yourself. ・List the three most important things you have achieved in your like 等
- (5) 学習者の肯定的思考を高める
 - ・ Make a list of the most difficult things you have experienced. How did you deal with them? What have you learned from these experiences? ・Do you have any worries now? How are you going to deal with them? 等
- (6) 学習者の価値観を明確にする
- (7) ・Which do you think more important, time or money? Why do you think so? ・Choose five of the following items that you think are most important. Then rank the items and state the reason for each. (time, freedom, status, love, wealth, family, job, health, friend, hobby,)

資料: 生徒が学習の主人公となる学習者集団の育て方 (三浦、2014、p.156)



Student-centered, teacher-facilitated class

出典:

石井博之. (2021 予定). 「日々の授業で生徒の人間形成を促す英語活動の試み」. 『Humanistic Language Education Japan Vol.1』. ヒューマニスティック英語教育研究会

加賀田哲也. 「HOP・STEP・教育力」 「人間教育としての英語教育を」 『信州発！教育実践Booklet』 第37号、2011、1170-1173.

縫部義憲. (1985) 『人間中心の英語教育』 ニューベリハウス出版社

三浦・池岡・中嶋. (2006A). 『ヒューマンな英語授業がしたい』 研究社

三浦 孝. (2006B). 「Relating Soul to Soul-人間関係の育てあいとしての英語教育を今こそ」 犬塚・三浦 (編著) 『英語コミュニケーション活動と人間形成』. 成美堂

三浦 孝. (2014). 『英語授業への人間形成的アプローチ』 研究社

峯島道夫・今井理恵. (2016). 「スティーブ・ジョブズと頂上タスクで批判的思考力を伸ばす」 『高校英語を知的にしたい』 研究社

山本孝次. (2019). 「実践高校 Soft CLIL でSDGs テーマ学習の実践 持続可能な社会の創り手を育てるために」 『新英語教育』 2019年12月号 pp.32-33、高文研

Richards, J.C.& T.S.Rodgers. (2003). Approaches and methods in language teaching. Cambridge. pp.18-35.

補足: できればこの資料は今後更に三浦孝・石井博之・加賀田哲也・鈴木章能・Jerry Talandis・種村綾子で練り上げて、紀要『Humanistic Language Education Japan Vol.1』に投稿したいと考えています。

Humanistic Language Teaching の模式図

生徒を全人的存在として尊ぶ

= 持って生まれた潜在的可能性をフルに発揮して生きる人生の支援

- 安全の欲求
- 所属と愛の欲求
- 承認の欲求
- 自己実現の欲求

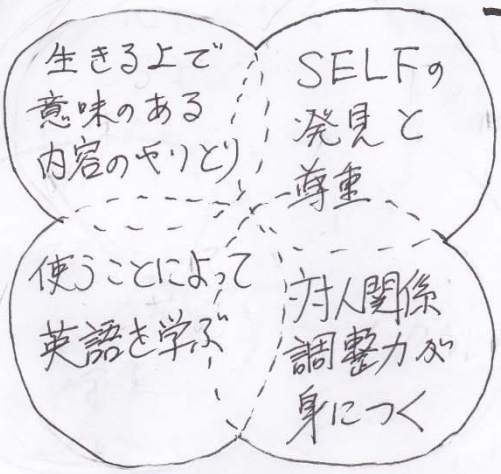
すべての生徒に内在する、この志向性の実現を究極目標とする授業

これからの日本人は英語で何かをできるはよりか、の目標をしっかりと描いて



英語アクティビティ運営参加力

spoon-fed
ation.



プロセス